「日本国内の黒鉛電極価格は強含み継続が予想される。今後トランプ政策の影響も。」

昨年初夏から秋にかけ、中国において、電炉用黒鉛電極の原料となるニードルコークスの価格が、中国国内の需要増加や地条鋼１億トン規模の低品位鉄生産設備の稼働禁止（実質の地条鋼生産量は３千～5 千万トン/年、程度）により、70 万円／トン近くまで急騰した。その後、12 月頃までにはやや安定を取り戻し、約 40 万円／トン前後を推移しているが、それに釣られる形で日本国内のニードルコークス価格も 11 月頃から大幅に上昇し、現在まで高値で推移している。

一方、これを受けて日本国内の電炉用黒鉛電極各メーカーによる電極価格改訂は４月以降の製品を対象にほぼ固まり、前年比で２倍強から３倍近い価格に上昇した模様である。９月からの取引価格も上昇が見込まれ、品不足感も継続しており、トランプ大統領が輸入鋼材の一部に関税をかけた米国で電炉の稼働率が高まれば、需要が一段と増し、さらなる価格上昇の可能性もある。

（CMI 情報、化学工業日報など）